

秋津野地域づくり協議会の活動について

和歌山県田辺市上秋津地区



木村則夫 自己紹介



木村農園 園主

農業(みかん、晩柑・オレンジ、南高梅)を生産・販売

- 17年間の農業機械関係のサラリーマン生活後、就農
- 地元で農業情報の利用研究や農業関係者のオンラインネットワーク化の推進
- 地域のICT利用や農業・地域情報の発信などの活動を行ってきた
- 上秋津地区の地域づくりに巻き込まれコミュニティービジネスの役員に就任

- 株式会社秋津野の代表取締役社長
- 株式会社きてら代表取締役専務
- 株式会社秋津野ゆい取締役

農林水産省の地産地消の仕事人
全国直売ネットワーク副会長



和歌山県田辺市

JR新大阪駅から特急で約2時間30分(紀伊田辺駅)

中国吹田JCから約2時間20分(南紀田辺IC)

上秋津は、田辺市の中心市街地から車で約15分中山間地



和歌山県南部の経済の中心地



祝 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」追加登録



秋津野から車で

- ◇南紀白浜温泉まで20分
- ◇熊野本宮大社まで60分
- ◇新宮速玉大社まで90分
- ◇潮岬まで70分
- ◇那智・勝浦温泉まで110分
- ◇高野山まで150分



田辺市は毎日3人の人口減少が続く

上秋津は農村であるが住環境の良さから1990年頃から戸数も人口も増え続けたが...
人口は保たれつつあるが、少子化で上秋津小・中学校の児童・生徒数の減少が始まる

合併当時の田辺市の人口85,667人

(2005年4月)

旧田辺市 70,307人

上秋津地区 3,323人

旧本宮町 3,785人

旧大塔村 3,345人

旧中辺路町 3,753人

旧龍神村 4,477人

▲16,754人

現在の田辺市の人口 68,884人

(2023年7月)

旧田辺市 59,097人

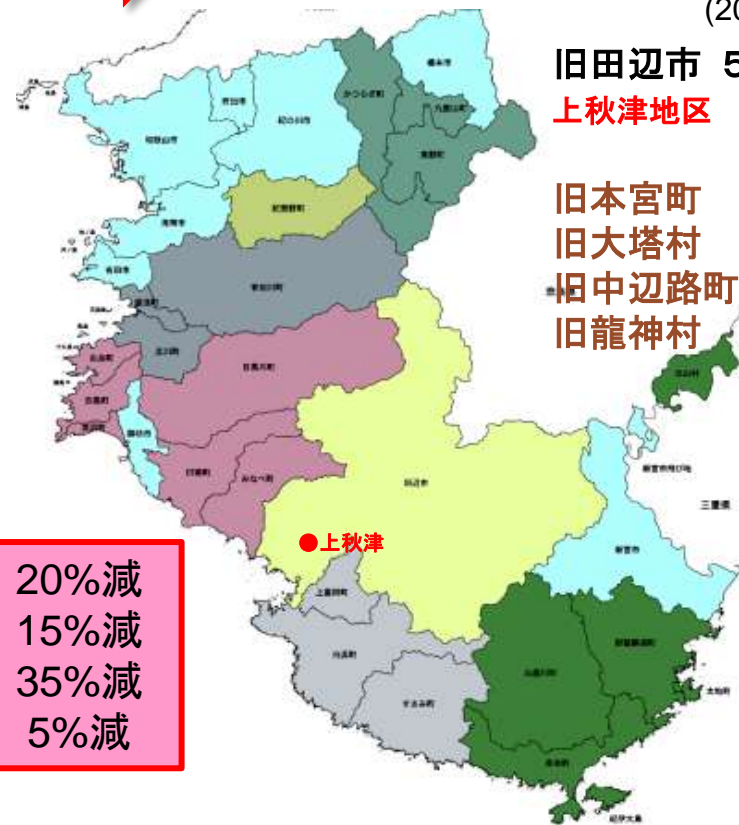
上秋津地区 3,144人

旧本宮町 2,383人

旧大塔村 2,293人

旧中辺路町 2,340人

旧龍神村 2,731人



田辺市は 20%減
旧田辺市 15%減
旧4町村 35%減
上秋津 5%減

1,250,000円 × 16,745人 = 〇〇,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇円

和歌山県田辺市上秋津地区

(3方を山に囲まれた中山間に属する地域)

- 農業は梅と柑橘栽培で周年収穫体制をとる農家が多い
- 昭和の時代から住民主体の地域づくりが続く地域
- 人口が増え、多様な考えが存在する農村の姿
- 地域づくりにコミュニティービジネス手法をいち早く取り入れた地域



平成8年には農林水産省主催の豊かな地域づくり表彰事業で天皇杯受賞

上秋津農業はリスク分散型の果樹栽培体系に

いくたびの経営危機から学んだ、柑橘の多種多品目の**周年収穫体制**

ひとつの品種品目では、気象・社会情勢・消費の変化に耐えられない。

ひとつの品種品目では労働力の分散が難しい。

行政や農協の営農指導機関からは多品目・多品種栽培は市場流通に不向きで栽培の効率が悪い

柑橘 温州ミカン・ポンカン・デコポン・三宝・ネーブル・清見・甘夏・カラ・セミノール・ニューサマーオレンジ・バレンシアオレンジ・はるみ、春峰、メーバー、他80品種。落葉果樹南高梅・古城梅・小梅・すもも・甘柿等が栽培されている。80品種以上



温州みかん



80種類

晩柑・オレンジ



南高梅

□直売所 > 店頭での品揃えに大きく貢献できる。産直においては年中顧客との繋がりが保てる。

□グリーンツーリズム > 収穫体験や作業体験での周年メニューにつながる。

上秋津は多様な考えの住民が暮らす農村に

1955年 540戸(約60%が農家) 2700人
 2023年 1283戸(約25%が農家) 3144人

- 上秋津地域は中山間地の農村なのに人口が増えた地域(現在も増えている)
- 平成の初めには急激な人口増で新旧住民間にトラブルも見られ、地域づくり協議会『秋津野塾』を組織、地域づくりやコミュニティづくりを進めて来た
- 住民が株主の直売所や都市と農村の交流施設などを運営している



秋津野直売所『きてら』

住民出資のコミュニティビジネス



都市と農村の交流施設
秋津野ガルテン

住民主体の地域づくりが続いている



現在でも移り住んでくる方が多い上秋津地域

農村RMO

秋津野地域づくり協議会

秋津野地域づくり協議会立ち上げの経緯

- 当初の地域づくりは地域内組織を網羅した協議会『秋津野塾』が主体
- 平成8年ごろからは、地域課題には経済をも考えた取組が必要が出て来た。これまでのボランティア活動主体の協議会では限界？
- 平成11年以降、住民出資のコミュニティビジネスを次々に立ち上げ、地域づくりに経済を絡ませながら、地域の活性化を目指してきた
- 都市と農村の交流を運営する中で、地域づくり窓口機能も整った
- 令和元年には、廃園を復活させた園地で梅栽培を目指す法人も立ち上り、農機レンタル事業や廃園復活のための取組等を行っている。

農村RMO

- これまでの地域づくりの経験を生かすことができるのでは
- コミュニティビジネス間の連携は進んでいる(相乗効果もある)
- 地域内組織とコミュニティビジネスの両輪で進められる可能性もある
- RMOのための、窓口や事務局としての機能も持ち合わせている

秋津野地域づくり協議会

1999年

<https://kiteraga.com/>

CB

株式会社きてら

直売所事業
俺ん家ジュース事業
加工・農業体験事業

<https://akizuno.jp/>

2019年

CB

株式会社秋津野ゆい

南高梅の生産販売
農機レンタル、スマート農業推進
廃園復活、他

2007年

<https://agarten.jp/>

CB

株式会社秋津野

都市農村交流

農家レストラン、宿泊施設、オーナー制度、
ICTグリーンオフィス、ワーホリ受け入れ窓口
スマート農業実証、農村RMOの研究

<https://shinfurusato.jp/>

2014年

(一社)ふるさと未来への挑戦

地域づくり中間支援組織

太陽光発電、水力発電による売電
得られた収益でコミュニティビジネスを支援

連携

<https://akizuno.net/>

1994年

秋津野塾

コミュニティづくり協議会

地域にある組織団体を網羅した地域づくり協議会
で平成8年に天皇杯。

協議会

CB

コミュニティビジネス

秋津野塾組織

本部執行部

(塾長は町内会長があたる)

上秋津町内会(11地区支部)

上秋津公民館

(社)上秋津愛郷会

土木委員会

上秋津消防団

上秋津自主防災会

女性の会

民生委員会

福祉委員会

地元選出 市会議員

JA紀南上秋津支所

上秋津支所青年部

上秋津支所女性の会

上秋津支所
生産販売委員会

農業委員会

上秋津幼稚園

幼稚園PTA

上秋津小学校

小学校育友会

上秋津中学校

中学校PTA

子供クラブ

田辺市緑の少年団

(株)きてら

(株)秋津野

(一社)ふるさと
未来への挑戦

(老)あきつの

牟婁商工会

上秋津の地域づくりを振り返る

住民が地域づくりの組織を立ち上げそして関わってきた
昭和から平成へそして令和へ

(社)上秋津愛郷会(あいごうかい)設立

昭和の6村合併を機に地域に残された財産の管理運営の社団法人を発足
財産運営をし得られた収益は地域で3つの目的(公益)だけに使う!

愛郷会は昭和の時代のRMOだったかもしれません



地域の未来を見つめた村の選択

愛郷会の運営から得られる収益は、大きな地域づくりの原資
 行政だけに頼ることのない『自主財源の確保』ができ、独自の地域づくりへと

全国モデルに

1957年、和歌山県下に於いて、はじめて社団法人を設立し、旧上秋津村有財産全てを地域住民に復帰し、さらに、社団法人に所有権を移転し社団法人による運用が開始し、**全国に於いても初めての財産区の解消**という画期的な仕事を実現、社団法人として運営に努力を重ね、今日にいたっている。

社団法人上秋津愛郷会(昭和32年)



公益社団法人上秋津愛郷会(平成24年)

上秋津を考える会の誕生で地域が動く

本格的な、地域づくりを行う実働組織の誕生



スカイパーク整備

自ら行えることは自分たちの手で！

当初は、地域から冷ややかな視線
(地域の公の場での発言権が無い)
「青年たちが勝手に作った一部の人の遊びや」
「考える会を考える会がほしい」

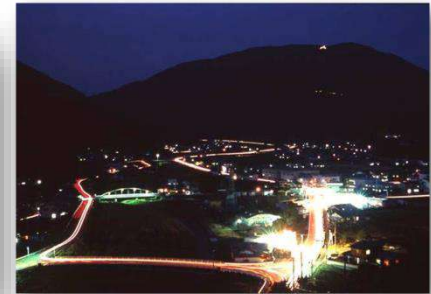


高尾山登山マラソン開催

～ 何かが始まろうというときに必ず地域に波風が立つ ～



ログハウス鷹乃巣建築



人文字ライトアップ

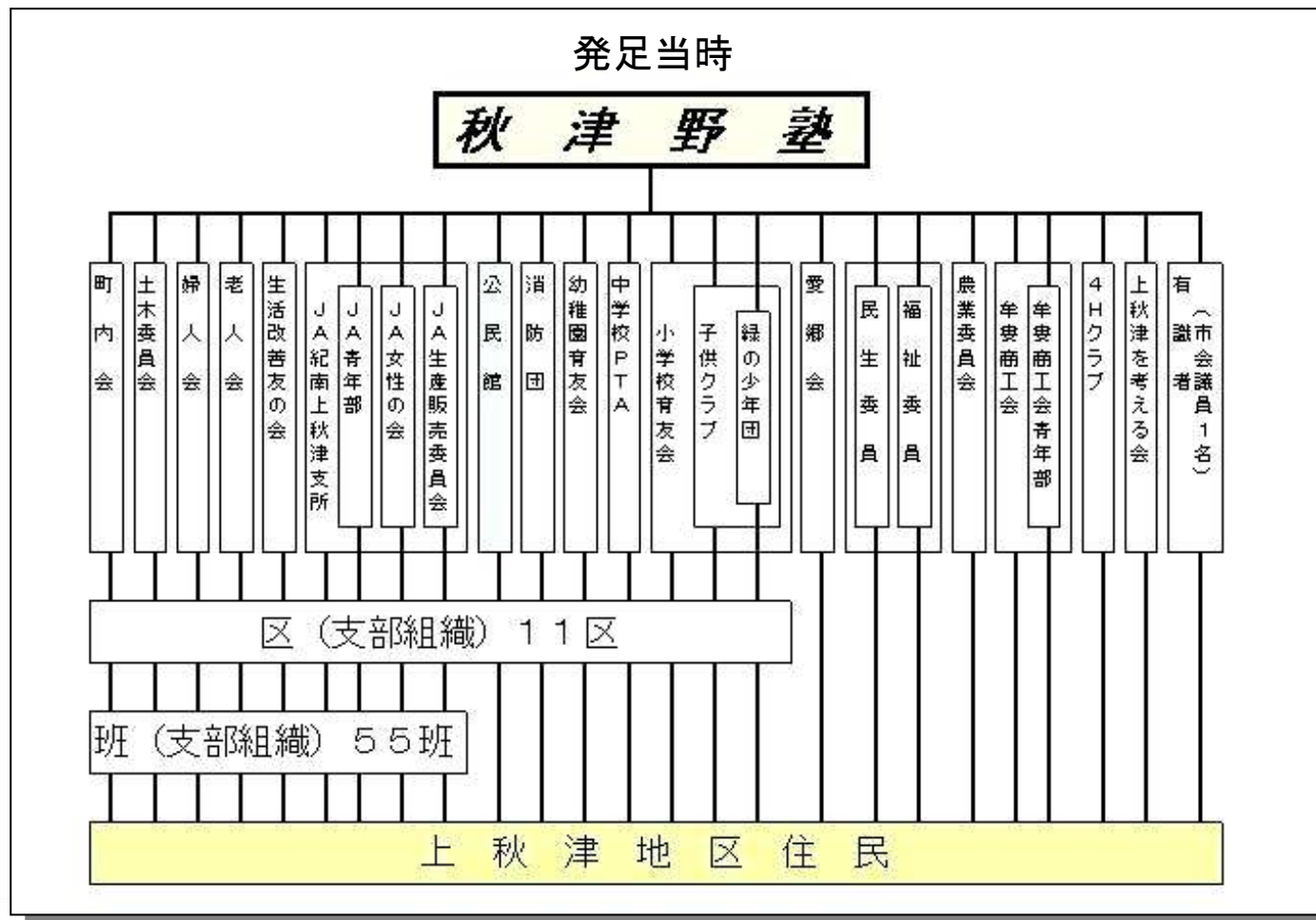
- 上秋津を考える会の活動で少しずつ地域に変化が
- 秋津野塾発足で、考える会も正式な地域の組織として参加

メンバーは、実践活動を通して、その後の地域づくりのリーダーへと成長

地域づくり組織『秋津野塾』結成

地域づくり
協議会

幅広い合意形成を図りながら、より活発な村づくりへの取組
発足後、約15年間には地域づくりの目標を持ち活動も活発化した...



地域にある、ほぼ全ての団体が名前を連ね、
タテ・ヨコに統合された組織が秋津野塾である

発足当時から協議会参加組織数が多いのではと？...

地域づくりでやれることは何でもやってきたが...

平成に入るところからがむしゃらに地域づくりに取り組み活動を続けてきた



自主防災組会



小学校農業体験支援委員会



いきいき健康増進



奇絶峡整備委員会

住民が整備を行い守りづけてきた結果、平成27年に県立自然公園から吉野熊野国立公園に



みどりの少年団

コミュニティの復活を優先し地域イベント

自分たちで出来ることは、自らの手で行うを合言葉に、地域づくりが加速
自分たちで頑張れば地域に活気が呼び戻すことを実感できた



地域内の交流行事・イベントに地域外から人が集まりだしてきた



秋津野花まつり



秋津野夏まつり



高尾山登山



秋津野ラジオ&ウォーク
ラジオと一緒に地域内を歩き学ぶ



高尾山登山マラソン大会
※現在は行われていません

地域づくり活動を通して住民が学んだもの

平成8年には地域づくり表彰事業では頂点の天皇杯受賞

- ◇活動を通して**人材発掘・育成**と、**住民の成長**が見られる。
- ◇メディアを通して外からの評価が高まり、ここで暮らす**自信と誇り**が生まれる。
- ◇地域づくり活動をすることで、**組織**や**人とのネットワーク**が生まれる。

天皇杯申請のため、徹底的に地域を調べ上げた情報がその後役立つ



平成6～8年



地域情報を
貼り付け



天皇杯受賞後、
活動は
より活発化



地域独自のマスタープランで未来を目指す

今、地域を知らないと、前に進めない

和歌山大学との初めての連携

- ガムシャラに走り続けてきた地域づくりへの不安と賛否
- 地域の新たな課題や問題も見えだしてきた
- 経済のグローバル化や自由化による、農業への不安



- ① 地域社会の構造と意志決定システム
- ② 土地管理の現状と今後の土地利用
- ③ 地域農業の活性化と地域資源の活用

マスタープラン

(1) 地域社会の構造と意志決定システムに関する調査

- ① 住民の意思決定などのあり方についてのアンケート(約2000名)
- ② 地域高齢者生活調査アンケート、③ 学校、家庭生活調査アンケート(小学5、6年生・中学生全員)
- ④ 公民館活動についてのアンケート(公民館利用者)

(2) 上秋津地域の農業の基本方向と活性化策に関する調査

- ① 農業経営者対象、② 青年農業者対象、③ 農家女性対象
- ④ 地域外住民対象(上秋津の農業についてのアンケート)

(3) 上秋津地区の環境とくらしに関するアンケート(全世帯)

平成13年度からは、アンケートに基づくヒアリングを各地域、各組織で実施。ヒアリングの参加者は延べにして約300人にのぼる。



地域づくりに経済を取り入れた取組に

課題解決にはコミュニティビジネスが必要な時代に

急激なミカンの価格下落が無人の直売所に

再生産価格どころか生産原価を割るようになる

このままでは農家が弱り地域の力もなくなってしまう

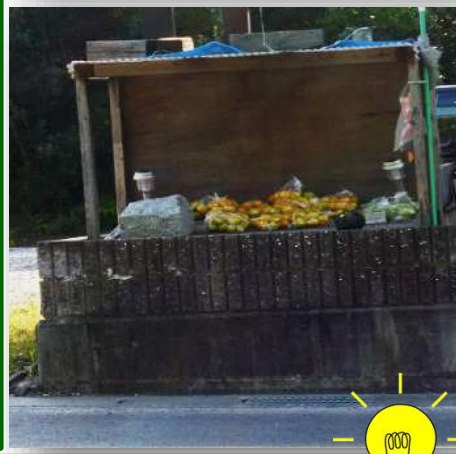
苦しまぎれに自衛する農家の姿(1円でも高く売りたい)



上秋津では平成6年が農業生産額ピーク



とまどう農家の姿(販売体制への不安)



無人直売所から見える体力が無くなる農家の姿 >  だがチャンスも見え隠れ

住民の出資で常設の直売所を開設



これまでの地域づくり活動での**住民の成長**が**出資**につながった行政や農協からは応援は得られなかったが、みんなで直売所を！

地域づくりの有志31名が一人10万円を持ち寄る

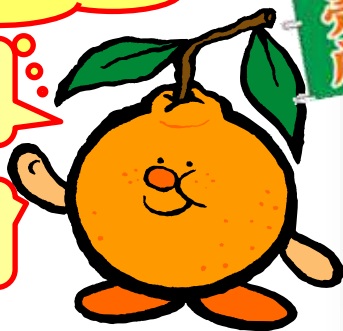


10坪の中古のプレハブ倉庫に夢を託す

秋津野でも！

直売所の時代は必ずやってくる。

全国に地産地消の風は吹いている



みかん直売所



直売所の目的
(理念)
地域づくり

農家に農産物価格の決定権を > **農家にやる気を**
お年寄りの生きがいの場の提供 > **寝たきり老人をつくらない**
新たな地場産品を発掘 > **みかん・梅以外の地域産品を経済に変える**

地域の住民なら誰でも15%の販売手数料を支払えば出荷出来る

新築移転が本格的なCB時代に

直売所立地のセオリーに反するが、農業や季節感を感じられる景観がある



お年寄りが毎日
出荷出来る距離に



移転目的

売り場面積の拡大で商品を増や地域の農産物もっと届けたい
 買い物の環境の整備(駐車場・トイレの確保)と農産物加工施設の設置

それでも
売場面積20坪



再投資

新たに55名(内23名は地域外応援団)の出資者+県の補助金+借り入れ 23

小さな直売所の人口減少時代への挑戦

直売所間競争の激化！

大きな直売所と出荷者や顧客争奪戦しても体力を消耗するだけ！

小さな直売所だから全国にお客さまを求めよう！



産地直送の活発化 全国に『きてら』のファンを！
いずれ地域の応援団につながるのでは？



秋津野産直売所『きてら』
2017 春みかんセット

春みかん7種類！
秋津野ならではの
味わいセットです。

hasaku 八朔 (はっしやく) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

sanpoukan 三宝柑 (さんぼうかん) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

setoka せとのか (せとのか) 皮が厚く、味の保ちもよく、実も甘いのが特徴です。

akiduno-deko 秋津野デコ (あきつ野デコ) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

ne-hurui ネーブル (ねーぶる) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

syurpou 清見 (せいみ) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

ne-hurui アカリフルーザ (アカリフルーザ) 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

syurpou 春のプレゼント ミニちゃん 産直は買めても秋津野産直売所はよく食べやすいです。みかみの皮が厚く、ほんのりと苦みを残しているのもあります。

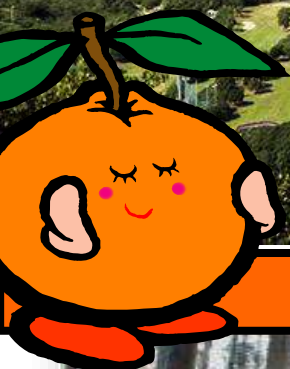


地域情報も添えて全国へ



地域資源を活かした都市農村交流

～ 日本にもグリーンツーリズム時代がやってくる ～



もっと農村に人を呼び込もう！



平安の時代から続いている熊野詣も、癒しと蘇りを求めて旅するグリーンツーリズム
秋津野でもいずれ人口減少時代に突入する。交流・関係人口を増やして行きたい

心の地域資源（小学校）の活用

地域
資源

誰も取り壊してほしいと願う人はいない。いつまでもこの場所にあってほしいと願う。
時代は文化的建築物の破壊よりリノベーションによる新しい価値を求めだしている

この小学校の卒業生やここに暮らす住民の心のふるさとを守れる可能性がある
歴史ある学校だけに、今なら多くの卒業生や住民に応援を頂ける可能性がある

明治9年開校



事業化への最終判断は住民の応援

- ◇説明会事前に、上秋津全世帯に計画書を配布
- ◇パワーポイントを利用し、全地区(11集落)で同じ内容で説明



- ◇出資は住民誰もが出来る金額(1株=2万円)から
- ◇一人最高25株=50万円までの制限付き(個人に大きな権限を与えない)
- ◇地域内の方は議決権有りの株主、地域外の方は議決権無しの株主



合意形成(応援)を得るためには議決権のある株数制限は有効であった

地域外からの出資を受けるのにも、議決権制限株式の対応で地域に安心を与えた

法人設立 資本金 ¥33,300,000 298名(平成19年6月)



増資 資本金 ¥41,800,000 489名(平成20年9月)



※現在は農業法人育成ファンド投資を受け入れ 資本金が5180万円

プロのシェフはいないがプロの主婦がつくる家庭料理

気軽に何度でも来て料理や農業・農村を味わってほしい

地域女性の働く場の提供にもつながる



ひとつ、ひとつが手づくり。
スローフードバイキング
農家レストラン **むぎ畑**

地産地食への挑戦

経営の柱は
農家レストラン



農泊でさらに親しみやすい農村へ

秋津野の農業は生産・販売が主であるため、農泊施設の設置で農家女性負担軽減
秋津野の農家民泊は宿泊施設をメインに農家民泊で宿泊キャパの応援

- ◇ 農村での交流をさらに深化させ経済に結び付けたい
- ◇ 将来は農村ワーキングホリデーでの宿泊施設につなげたい
- ◇ 帰郷利用で故郷の暖かさを感じてもらう(イターン・Uターン者の増加を目指す)

※宿泊数実績 2019年度=約4,000人 2020年はコロナ禍で宿泊者数は激減。



2019年春、新・宿泊棟完成



インバウンドにも普通に対応

現在は熊野古道への旅が目的であるが、将来は農村が目的の旅になる。
(欧米・豪州の個人の旅行者が中心)



2020年はインバウンドは皆無。



14軒の農家民泊



スイーツ&カフェ 体験工房バレンシア畑

人が来ているのにモッタイナイ！秋津野ガルテンでの滞在時間の延長で経済に

Akizuno Greentourism Project
Valencia-Batake
produced by Kitera & Akizuno-garten

定休日(火曜日、但し祝日は除く)



農村RMO 組織間連携

スイーツづくり体験

ジャム、マーマレード、ジュースしぼり
クッキー、ロールケーキ、スーカップシ
フォン、シュークリーム、フルーツタルト

ピザ、パン焼き体験

里染・手芸体験

みかん染、梅の枝染、ビワの葉染、玉
ねぎの皮染、栗染

ドライみかん体験

ハーバリウムづくり、リースづくり、
リース時計づくり



農や地域資源を活かした事業はまだ沢山ある

ミカン収穫体験

体験専門園地は持たない



きてらと
ガルテン
連携事業



地域づくり学校

平成20年9月～



和歌山大学
連携事業

関係・交流人口の増加と
ネットワーク化

新・ミカンオーナー制

TVを介してオーナー募集



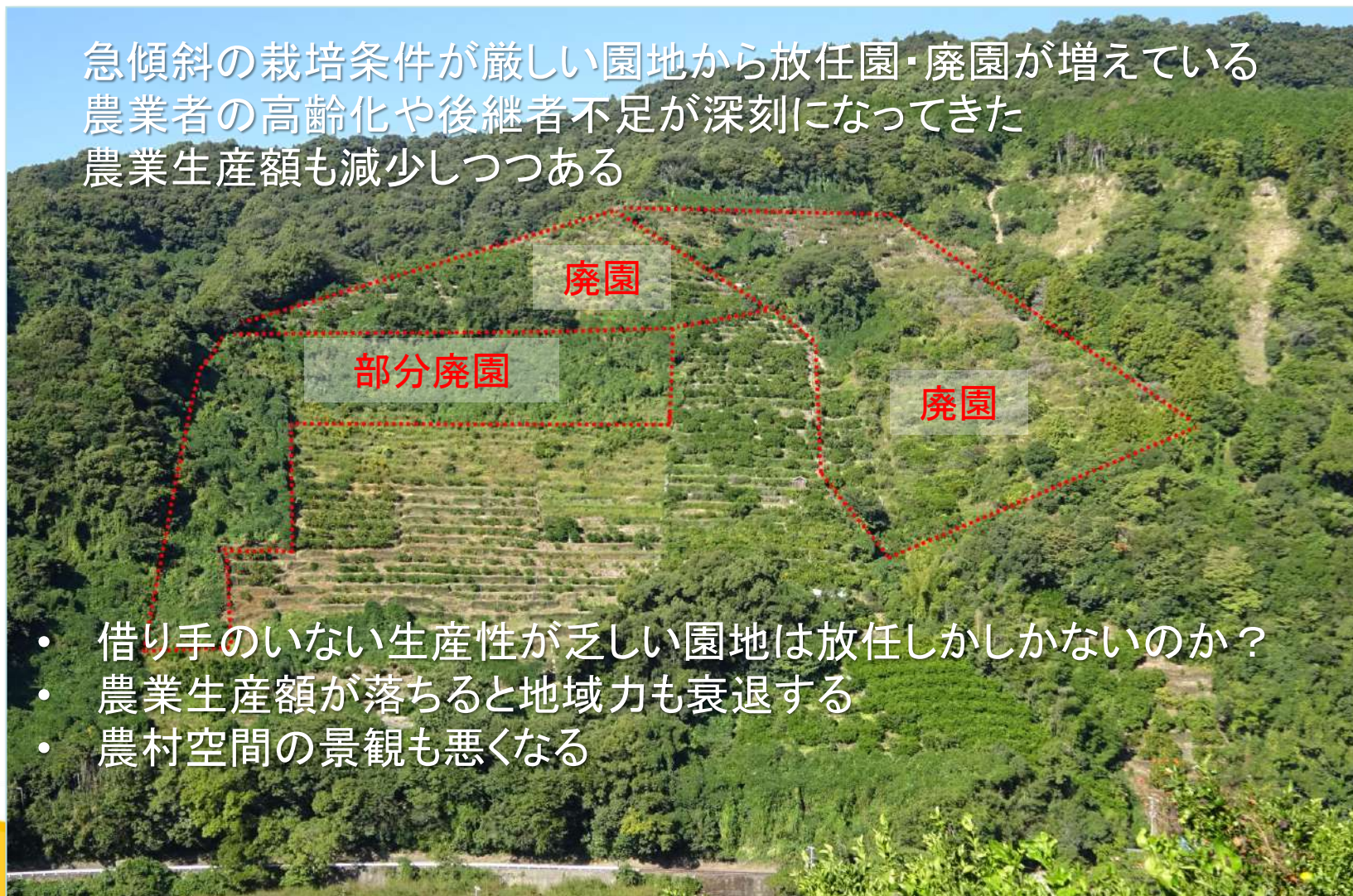
新たな課題のために農村RMO

地域づくりに終わりはない

上秋津の樹園地でも廃園、放任園が

条件が良い園地だけでも、なんとか後継者や農業法人に残して行きたい

急傾斜の栽培条件が厳しい園地から放任園・廃園が増えている
農業者の高齢化や後継者不足が深刻になってきた
農業生産額も減少しつつある



- 借り手のいない生産性が乏しい園地は放任しかしかないのか？
- 農業生産額が落ちると地域力も衰退する
- 農村空間の景観も悪くなる

農業の課題解決のための組織を立ち上げ

農業を事業とする農業法人『株式会社秋津野ゆい』を組織（令和元年11月）

- ◆ 法人組織（株式会社）での農業経営への挑戦と優良園地の保護や農業支援
- ◆ 農産物（特にウメ）の生産・加工・販売
- ◆ 農業機械のレンタル、スマート農業に関する調査研究と実践

まだまだ準備段階



スマート農業に耐えられる園地改造された梅畑



秋津川園地

作業の省力化

自走草刈り機、梅の枝などの樹木粉碎機などの導入や地域へのレンタル。スマート農機導入研究。

優良農地の借受け、請負

農家が農業を継続していても、収穫などで人手が足りない場合、作業を請け負う

耕作放棄地を梅畑へ再生^{49a(上秋津下佐向261-4)}

令和4年度和歌山県攻めの農業実践支援事業(令和4度RMO予算は不使用)
農業法人秋津野ゆいを中心にスマート農機でも使用可能なように廃園を復活
廃園を復活させ苗木を植えてもその後**5年以上、栽培管理費の大きな支出が続く**



令和5年度農村RMO事業

梅畑に再生した園地の栽培管理

上秋津下畑4110(33a)、上秋津下佐向261-4(49a)

園地再生後、何年にもわたる栽培管理や投下費用の負担も非常に大きい



農村RMO

令和5年度、RMOで再生した園地の栽培管理・投下費用の負担軽減を行う。県や市の廃園園地の再生予算はあるが、その後の支援は無い。

上秋津下畑4110



収益が見込まれるまであと3年はかかる



秋津野ゆいが5年前に自力復活させた秋津川園地

耕作放棄地を里山へ再生 (上秋津宇井田1152-2、1152-4) 36a

放任園の急傾斜の段々畑を再生しても畑としての将来性は全く無い
そのまま放置すると景観が悪いばかりかイノシシなどの住処になる

農村RMO

令和5年度RMO事業で秋津野の実情に合わせた再生

都市農村交流が盛んな上秋津地域では、モミジや桜、他等の景観作物を植えることで、ウォークイベントや低山登山などの催しで農村に人を呼び込める可能性が高まる



再び、経済的作物を植えても管理ができない



里山ラジオ&ウォーク

農業機械レンタル事業で農家の負担を軽く

高価な農業機械を地域内でレンタルするため、
秋津野RMO参加組織と上秋津中山間委員会が連携。

連
携

- 農業法人(株)秋津野ゆいは、所有の農機の提供と整備
- 上秋津中山間委員会(上秋津集落協定)が中山間地域等直接支払交付金制度の生産性向上加算交付金を活用
- 農業法人(株)秋津野がレンタル事業の窓口受付業務



農村RMO 組織間連携

泊食分離型農村ワーキングホリデー（援農）制度

上秋津地区では農村ワーキングホリデー（援農）は13年前から続けられていたが、ワーキングホリデー参加者の負担と農家側の負担が問題で利用者は伸びなかった

秋津野RMO参加組織と上秋津中山間委員会が連携。

- 上秋津中山間委員会（上秋津集落協定）が中山間地域等直接支払交付金制度の集落機能強化加算交付金を活用。
- 農業法人（株）秋津野が参加者と農家のマッチング作業と食事、宿泊場所の提供

農村RMO 組織間連携

※利用者 令和2年 60人 令和3年 159人 令和4年 149人



ルーラルウェザーネットワークの維持とデータ分析

気象データを活用する農業へ

スマート農業の実証から実用へを応援

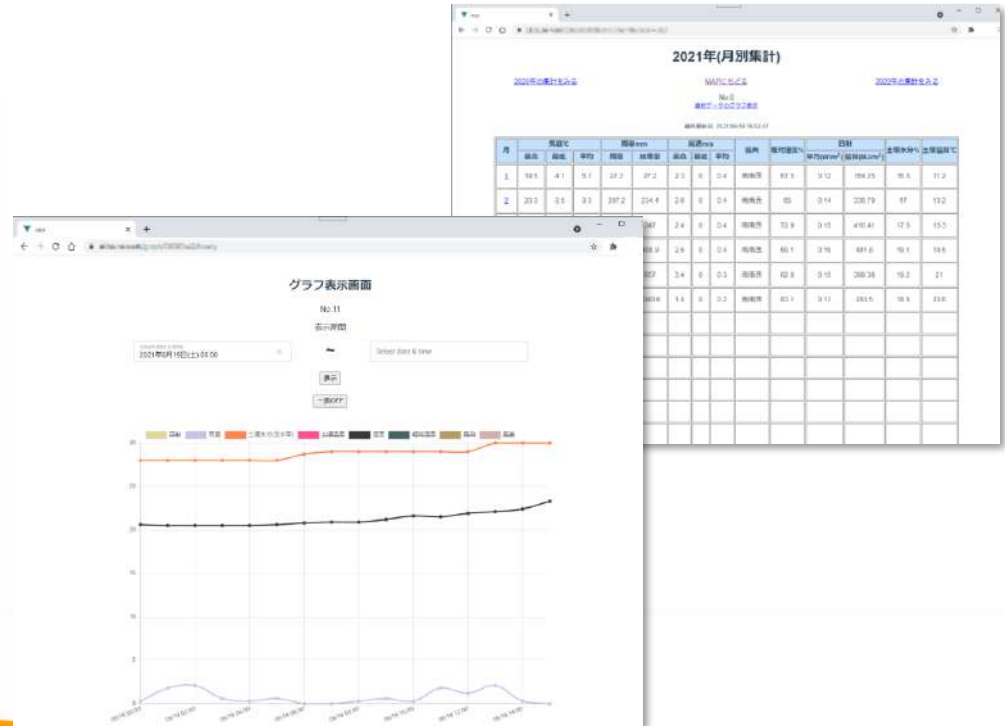
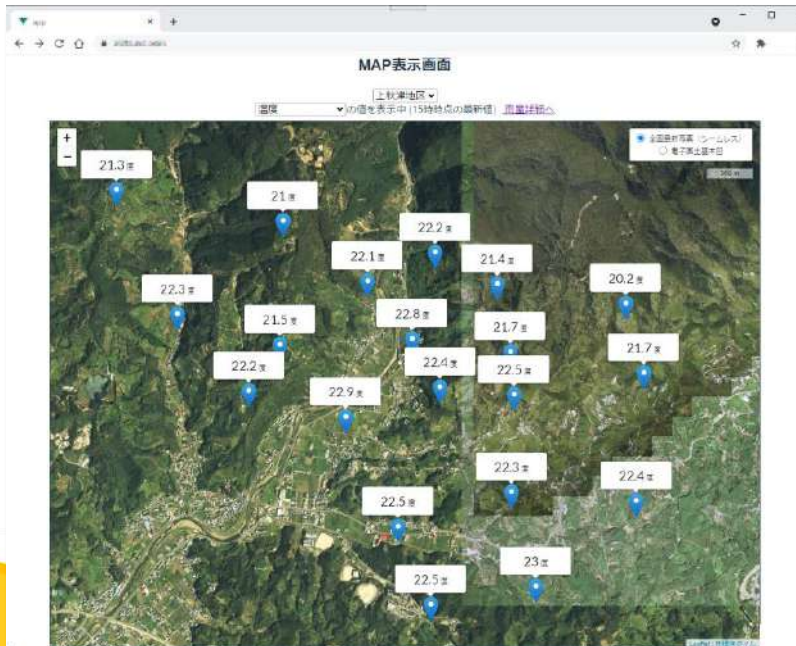
※令和2～3年 国のスマート農業実証プロジェクトに参加。ルーラルウェザーネットワークで適時防除や管理で作物の高品質化、防除薬剤削減を目指す。



農村RMO

令和5年度 農村RMO事業での管理維持・データ分析

過去の取組を磨き上げ実証から実用へ



希薄になりつつ高齢者のコミュニティー対策

地域づくりに高齢者のニーズを引き出すのが難しい時代になりつつある

- 秋津野の里でも老人クラブが解散し、高齢者同士のコミュニティーが希薄化
- 介護保険制度の対象者となる高齢者は、別々の介護老人福祉施設等にデイサービスに通う状態。
- 高齢でも働かなければならない現実もある。

いきいき健康増進(秋津野塾内のボランティア活動)25年間継続されている

- ✓ 平成9年から、地域で寝たきり老人を作りたくないという活動がスタート。
- ✓ 月に数回農村センターを拠点に健康増進を図りながらコミュニティづくりも行っていった。
- ✓ 5年間は田辺市からも職員派遣があったが中止され、活動は、地元のボランティアやの福祉委員とで継続されているが予算的な援助はほとんどない。

農村RMO

令和5年度 農村RMO事業でサロンバスを2回運用をする

今ある組織を応援するのも農村RMOの役割



時代のニーズに合わせた加工施設へ

農村女性の農産物加工などの活動が行われていたが、経済には結びついていなかった。保健所の許可がとれた施設を設けた。

テストキッチン
『きてら工房』
平成15年開設

- 加工施設としての許可を取得し、加工品開発へのハードルを下げる。
- 高価な加工機器の協同利用もできる
- 商品が出来れば直売所の店舗で販売が試せる

令和4年度RMOで大型の食品乾燥機を、令和5年度で皮切器の導入と加工場の環境改善をしたことで、地元柑橘のピール生産が伸びはじめている

既存の施設に新たな機器をRMOで導入することで、働き方改革と経済性を高める支援となりました。



これで早く
おうちに帰
れる～



農村RMO

さいごに

- 地域コミュニティが健全な形で保たれていなければ、住民の地域づくり活動への参加は難しい。
- 地域づくりの過程に人材育成のカリキュラムがある。
- 地域づくりが一過性で終わらないためにも、地域づくりとコミュニティビジネスの両輪で、地域活性化をすすめる必要性がある。



今回の農村RMO事業中、全国のRMO先進地を学び、山積する地域課題を早期に解決するため、計画から実行・実現が素早く行えるRMO組織体を目指していきたい。

秋津野地域づくり協議会の活動について

和歌山県田辺市上秋津地区

ご清聴ありがとうございました